

新任薬剤師研修会を終えて

水戸医療センター 薬剤部 片山 めぐみ

出身大学：名古屋市立大学（平成29年）

興味のある分野：がん診療、緩和医療

私は4月から水戸医療センターで薬剤師として働き始めました。水戸医療センターは一般病床500床を有し、地域支援病院、がん診療連携拠点病院、救命救急センター、茨城県ドクターヘリ基地病院に加え、茨城県の基幹災害拠点病院の指定を受けています。このような病院で薬剤師として働ける喜びと責任を感じながら、地域医療に貢献すべく、日々勉強しています。現在は、主に消化器内科の患者さんのもとへ、新規投与医薬品の説明や面談に伺っています。

研修ではまず、国立がん研究センター東病院の川崎敏克先生より、医療安全についての講義がありました。具体的に今まで起こってしまった事例から改善案について複数考えていく内容であり、非常に勉強になりました。講義の後には、神奈川県病院の阿部直樹先生より、コミュニケーションと仕事量についてのグループ研修があり、コミュニケーションの重要性を実感することができました。

国立病院機構の大きな魅力の一つとして、急性期から慢性期、様々な特色を持つ病院があり、またそのネットワークが密であることがあげられますが、今回の新任薬剤師研修では、その魅力を存分に感じることはできました。今回の研修会には、国立病院機構の新任薬剤師だけでなく、国立高度専門医療センターのレジデントの方も参加されており、総勢58名での研修でした。水戸医療センターには4名の新任薬剤師がいますが、その4名でも、担当病棟等の違いから、その業務内容はまったく同じというわけではありません。それが、58名、22病院となると、入職してわずか3ヶ月といえども、様々な違いがあり驚きました。講

義の内容を考える上で、自分の勤める病院では実際にどんな薬剤が採用されているのか、勤務体制、チェック体制はどうなっているのかという話が自然と出て、それぞれの病院の特色と工夫を知ることができました。また、そうした情報交換が積極的に行える背景には、5月末にも医療技術職員等新採用職員研修が開催されたことがあると思います。一度ではなく、何度もこうした研修で会う機会があるからこそ、多くの同期と話す機会が生まれ、遠くの病院の同期とも仲良くなることができたのだと思います。

私は、薬剤師に求められることとして、何よりもまず医薬品の適正使用の推進があると考えています。私が薬剤師として業務に携わってからまだいくらか経っていませんが、似た症例を知っていること、実際にその薬剤の使用に携わった経験があることが、非常に重要であると思うようになりました。日々の業務と勉強はもちろんですが、ひとつの病院で採用されている薬には限りがあります。異なる薬を実際に使用している患者さんの側にいる薬剤師から話が聞けるということ、それができるネットワークがあるということはとても有難いことです。

今回の研修を通して、国立病院機構のネットワークについて改めて感銘を受けるとともに、そのネットワークを活かして、精進しようという思いが新たになりました。私の夢は、患者さんからも医療関係者からも信頼される薬剤師になることです。多くの同期と共に、よりよい医療に貢献できるよう、日々努力していきたいと思います。